



CYCLE BASE **asahi** スーパーママチャリGP

第10回ママチャリ日本グランプリ チーム対抗7時間耐久ママチャリ世界選手権 開催結果

富士スピードウェイでは、1月7日(土)に、株式会社あさひの冠協賛のもと、「あさひスーパーママチャリグランプリ 第10回 ママチャリ日本グランプリ チーム対抗7時間耐久ママチャリ世界選手権」を開催。雲ひとつない晴天の中、輝く霊峰富士をバックに 1,156 チーム、23,800 人が参加、出走しました。

ママチャリグランプリは、FIA 世界耐久選手権や SUPER GT など自動車レースの舞台となる国際格式のレーシングコースを使い、最大 10 名のチーム内で交代しながら 7 時間を走りぬく、正月恒例の自転車レースです。

本年度は、「キクミモーターズモキュ」が 51 周(約 232.7km)を走破し優勝しました。

入場開始時刻である大会前日 15時から多くの参加者が来場し、翌日のレースに向けた準備が始まりました。

大会前夜には、レーシングコースを歩く「エレクトリカル・ナイトウォーク」を実施しました。参加者約 700人は、電飾やライト、光るおもちゃなどを身に付け、御殿場市街の夜景や星空を見ながら、チームの仲間と一緒に夜のレーシングコースを散策しました。

また、パドックエリアではテントを張りBBQを行うなど、零度を下回る気温の中、仲間やグループで和気あいあいと大会を前にして盛り上がるいつもの光景が見受けられました。

レース中は、速い選手を揃え上位を目指すチームをはじめ、会社のノボリ等を自転車に装着して PR に余念がないチーム、自転車に装飾や着ぐるみなどのコスプレを着用し走行するチームなど、各チームが7時間後のゴールを目指し、それぞれのスタイルでママチャリグランプリを楽しんでいました。

パドック内では、協賛各社様の PR ブースのほか、第 10 回大会を記念して特設リングが設置され、沼津プロレスによるスペシャルマッチや込山正秀小山町長などによる「餅まき」が行われ、観客を沸かせました。

また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック自転車競技の静岡県内開催を PR するため、「パンプトラック」が特別に設置され、観客が自転車に乗り、傾斜やバンク角のついたトラックでの走行に挑戦していました。

大会終了後には、レーシングカーのデモランを実施し、スーパーフォーミュラの SF14 に **小林可夢偉選手**と**石浦宏明選手**、「インタープロトシリーズ」の専用車両 kuruma に **中山雄一選手**、富士スピードウェイのセーフティーカー LEXUS RC F に **坪井翔選手**が乗りました。

4 台はレーシングコースを迫力のエンジン音とスピードで疾走し、多くのお客様から歓声があがっていました。



スタート前の記念撮影



スタート直後の様子



コース内を走る参加者の方々

以上

【プレスリリースに関するお問い合わせ】

営業部広報・マーケティング課 TEL:0550-78-1235(本社)/03-3556-8511(東京営業所)

E-mail: press@fujispeedway.co.jp